



りっか

立夏（5日）… 初夏の風を受けてこいのぼりが泳ぎます …

5月5日はこどもの日です。子どもたちの健やかな成長を願い園庭にこいのぼりが泳ぎます。伸び上げて見上げる子どもたちは、まさに成長する存在です。園庭のあちこちで、草花の生長の勢いを実感する季節を迎えています。いつも4月の誕生会では、園庭で見付けたペンペングサ（ナズナ）やツツジを紹介しています。小さい頃に、ペンペングサの種の柄の部分の少しだけをはがして「でんでん太鼓」のようにクルクルと回して遊んだり、ツツジの花の蜜を吸ったりした思い出はありますか？

<初候 蛙始鳴 かわずはじめてなく（5月5日～9日）>

虫や蛙が冬眠から目覚める頃は二十四節気の「啓蟄」ですが、蛙が元気に活動し始める頃が「蛙始鳴」だそうです。青南にいるのはアズマヒキガエルで、2月にはすでに池に20匹以上が集まって、命の営みを繰り返していました。今、池のオタマジャクシは足が生え始めてきています。大きく育つのは、その中のほんの一部です。あんなにたくさんいた蛙たちは…、実はプランターの下や蔭の葉の下などの湿った所にじっと隠れているようです。



<きれいな花の後は>

ぶうちゃんと一緒に定点観察をしてきて、園庭の生き物たちからたくさんのことを教えてもらっています。特に最近考えるのは匂とその後についてです。たんぼぼやチューリップなどの伸びるパワーには驚かされましたが、それが子孫を残すことに命を掛けているのだと気付かされました。そして、目を楽しませてくれた草花への感謝やねぎらいを忘れないでいたいと思います。



花はいつか散ります。枯れた花はそのままだと見た目も残念ですし、新しいつぼみに栄養を集中させるためにも枯れた花を摘みます（花がら摘み）。育てるからには、そこまで面倒を見ることを忘れないでいたいと思います。きれいに咲いてくれたチューリップやスイセンには、球根に肥料（お礼肥えと言います）をやりました。葉が枯れたら抜いて乾かして、秋に植えれば、来春には小ぶりながらまた花を咲かせてくれるでしょう。



種を撒いたり、苗を植えたりしただけでは、花も野菜もきれいな花や実をつけてはくれません。手間ひまをかける過程も含めて、美しさに感動したり、生態に学んだりすることがあると思うのです。花や野菜に足音を聞かせることで、小さな変化に気付くチャンスが増えます。それを自分の糧にできる感性を磨くためにも、自然との関わりを大切にしたいと思います。

